



4月21日(水)
第3号



京町家×アート!?! 「be京都」とは?



同志社大学新町キャンパスのすぐ北側にある、京町家を改装したギャラリー「be京都」。二〇〇年以上の歴史をもつ京町家は、文化・芸術が集う空間へと生まれ変わった。アートギャラリーとして利用されるのみならず、町家空間や和室レンタルスペースを活用したワークショップやイベントが多数開催されている。be京都の特徴といえば、やはり京町家を改装して作られたという点である。館長の岡元さんによれば、京町家×ギャラリーの組み合わせの背景には、旦那様の「京都の美大生だった時代に芸術発表の場がなかった。京都に芸術発表の場を作るなら京町家でやりたい」という思いがあったという。そこには、学生をはじめ若手のアーティストや芸術家に作品発表の場を提供したい、というご夫婦お二人の願いがあった。

岡元さんは、女性ならではの視点を活かしながら、「作家さんたちの心のよりどころになりたい」という思いをもって、館長として活躍されている。さらに、近隣には同志社大学や京都御所があり、アカデミックな地域の中にあることもbe京都の魅力であると話してくれた。伝統や歴史の詰まった、アカデミックに拓けたこの地で、be京都から文化と芸術が発信され続けている。

京町家で紡ぐ文化と生活



兵庫県出身の岡元さんは、be京都を始める前、「京町家」自体を知らず、京町家にそこまで思い入れはなかったそう。しかし、be京都を運営していくうちに、「景観としても、暮らしの文化の中でも大事にされている場所なので、拠点にできてよかった」と語る。

京町家を改装して、よかった点について尋ねると、「季節を彩るものがあったり、空気が流れている中での学べる」という点と、「会議室のような無機質な場所ではなく、生活の中で生活に根を共有しながら学べる」という点を挙げられた。

例えば、be京都では生け花教室が開講されており、京町家という暮らしの文化が詰まった場所で、生け花という生活に根を合わせたものを、講師と生徒が隣り合わせで学ぶことができる。その空間には、be京都で学ぶからこその感じられる温かみや一体感がある。つまり、be京都は、教室運営を通して文化、生活が引き継がれていく拠点にもなっているのだ。

地域の暮らしととも

be京都では、五月五日の端午の節句に合わせて、軒宮の行事に合わせたイベントも開催している。もともと京都以外の地で暮らしていた岡元さんは、この暮らしを根付けたこと、巻き込みながら継続すること、地域での繋がりが広がってきたと語る。

皆さんはbe京都、そして、同志社大学が位置する京都市上京区についてどれほど知っているだろうか。かつて平安京が置かれていたという歴史ある上京区は、京都御所、相国寺、北野天満宮など数多くの歴史遺産があり、西陣織などの伝統工芸品や伝統芸能が根付いている地域でもある。

岡元さんは、上京区の住民は暮らしに誇りを持っており、「西陣織や陶芸などについて知識や経験が豊富な方々が多い地域であるからこそ、be京都を訪れた際に、その知識や経験について交流が深められるのではないかと語っている。be京都は、ただ生活をjしているだけでは、意識的に触れたり、改めて考えたりする機会が少ない文化について学び、交流できる場だ。岡元さんは、be京都を訪れることで、雑多な日常を忘れて、暮らしの中で生きる喜びやゆとり、心の浄化を感じる場所でありたい」という思いを話してくださった。

コロナ禍での思い・繋がり・取り組み

昨今の新型コロナウイルスの流行は、経済や私たちの生活に大きな影響を及ぼしている。感染拡大による緊急事態宣言が発令された期間、be京都はお休みされていた。予約されていた仕事は「予約キャンセル、もしくは延期になった」という影響はある。しかし、食品衛生や古美術商の免許取得に取り組みなど、be京都として今後必要だと思われることを整理しておこうと思った。貴重な時間でもあった」と語る。

現在、be京都では様々なイベントが催されているが、コロナの影響により、例年よりも参加者が少ないそうだ。

「このような状況は辛いことの一つではあるが、お客様が来るのが難しい環境の中でも、展示は続けていく」と岡元さんは話す。

一方で、デジタルカメラの個人レッスンやホームページの教室など、マンツーマンでの教室利用がとて増えたという。今まではなんと多く体験してみようという人は多かったが、対面での価値が上がったことにより、そのレッスンを受けるために体験にくる人が多くなってきた。

また、海外から来られるお客様についてもお聞きしたところ、日本へ来るのが難しいため、予約はほとんどキャンセルになってしまった。しかし、その分、仕事の域を超えて、お互いに助け合おうというネットワークが強まったという。



ARCO便り

be京都さんでは、毎月第二土曜日水曜日に「アンテナショップ 町家手作り百貨店」が開催されています。私がここを訪れるきっかけとなったイベントでした。

ハンドメイドのアクセサリや雑貨などが並べられていて、「手づくり市」巡りにはまり始めていた私にはたまらなく魅力的な場所でした。町家の落ち着いた空間のなかで、のんびりと見て回ることができたのも良かったです。ちなみに私は、かわいらしい毛糸のがまぐちポーチを購入しました。また、手作りパンもとてもおいしかったです。また、手

とここで、京都に来てから「手づくり市」とか「マルシェ」といった言葉をよく聞くようになった気がします。皆さんも最寄りのイベントを探して行ってみると面白いかもしれません。きつとお気に入り一品に出会えますよ！そして、作家さんと直接お話しする機会があるというのも嬉しいですね。そんな体験を同志社大学今出川校地から一番近い場所で行うことができるので、be京都さんです！私も作家さんとして気軽にお話しできたことが嬉しくて印象的でした。

学生との繋がり

学生の利用についてお聞きすると、大学のゼミ、サークルの展示や新歓でbe京都が使われることがよくあるそうだ。学生時代にbe京都を訪れたり、展示をしたりした人たちが今でも交流があり、彼らの経験を積む場所にもなっている。

最後に、今後の企画や学生におすすめのイベントについてお聞きした。絵を描くのが好きであったり、飾ってみたいという思いがあったりするのであれば、参加型の企画「ポストカードコレクション」への参加をお勧めしてくださった。「ポストカードコレクション」では、約100人のアーティストが集まって、自作のポストカードを展示・販売している。学生の参加者も多く、交流会などもあるので、年齢を超えて新しい繋がりを作ることができている。

また、「ギャラリー」では、オープニングパーティーが開かれるので、興味があれば勇気を出して参加してもらったら、楽しいと思う」とおっしゃった。

さらに、be京都では、手芸女子を増やそうという思いから、「縫い物道場」というイベントを毎月第二土曜日開催予定である。そこでは、手縫いやミシンで縫いや裁縫知識を学び、級で技術を認定される。また、手芸が好きでアウトドアもやってみたいという人達を集めて、花を摘んでドライフラワーにするなど「アウトドア刺繍」というのを流行らそうと考えているそうだ。「興味があれば毎月第二土曜日に遊びに来てほしい」とメッセージをいただいた。

アーティストや地域の方が使わなくなってきた糸、ハギレパーツなどを安価で販売する「手作りのための材料市」も行われるので、学生たちにも購入してもらって、若い人たちに引き継いでもらいたいと話してくださった。今回、お話をしてくださった岡元さんはとても気さくな方で、「学生にどのような情報発信したらいいのか」「どのようないらっしゃった。学生目線で、文化・地域の交流が行われているbe京都に足を運んでみると、新しい繋がりや発見があるかもしれない。」

問い合わせ

ボランティア支援室(今出川)

開室時間:

平日9:00~11:30 12:30~17:00

ji-volun@mail.doshisha.ac.jp

TEL:075-251-3236

ARCO (今出川) Twitter →

